

教育用タッチタイプソフト『サエコ先生』の開発

Development of touch-type software “teacher saeko” for edcation

研究学生 村田 沙栄子

指導教官 江崎 修央

1. まえがき

近年の情報機器の発展はめざましいもので、パーソナルコンピュータについては会社や学校、あるいは趣味として人々の生活に取り入れられている。しかし、コンピュータの主入力装置であるキーボードを使いこなせる人は少ない。なぜなら、日本人には従来タイピングという文化がなく、使いこなすには多少の訓練が必要となるからである。そのため、いろいろな嗜好をこらしたタイピングソフトが存在するが、もっと簡単に楽しく修得できる教育用ソフトを作成したいと考えた。

2. ソフトの特徴

本ソフトウェアは大きく初級、中級、上級の3段階に分かれ、それぞれの中でもいくつかのステップから成り立っている。各ステップに合格ラインが設定してあり、それを越えないと次の練習に進むことはできない。その上、問題をランダムに表示させ、出題される問題の順番を覚えることがないようにする。また、オプション機能として入力を英数かローマ字入力の選択ができる。

3. ソフトの仕様

3.1 初級

確実にキーの位置を覚えることを目的とし、正解のキーが押されるまで、次のキー入力に進めないようにした。また、ディスプレイにキーボードの絵を表示し、正解キーを明示することにより手元のキーボードを見ないように配慮した。

3.2 中級

初級で覚えたキーの位置を利用して指運び、例えば“the”を入力するとき the という順番で入力する感覚を養うことを目的としているので、日常よく出てくる単語を中心に練習を行う。

また、なめらかな入力により入力速度の向上を図るため、初級のように正解キー文字が入力されるまで、待つことはなく、間違っても入力を続け

させるようにした。ここで、間違えて入力したキーが画面に表示されると利用者が間違えたことを気にするので、入力されたキーは画面には表示せず、代わりに“*”を表示して現在のカーソル位置がわかるようにする。

3.3 上級

ワープロ技能検定の入力科目を想定した練習をすることで初級・中級と練習してきたキーの位置や指運びをより確実なものとする。すべてクリアできると、ワープロ技能検定1級レベルに相当する。

3.4 判断基準

正解率は入力した文字がどれだけ正しく入力できたかをあらかず確率で、練習中にどれだけ正しくタイピングできているかを知ることができる。得点は、{1分あたりの入力文字数×正解率}/300で計算され、50点を超えれば次のステップに進むことができる。

4. まとめ

これからの課題としてはもっと楽しく、練習意欲が沸くような機能を多く取り入れる。例えばミスの多い単語をピックアップして練習できるようにする、次のレベルに上がる前にタイピングゲームを起用し楽しくクリアできるようにする、などを考えている。そして、たくさんの人にこのソフトを使用してもらい、キーボード入力をマスターしてもらいたい。



図1 初級の画面